

地域資源を活かした地域づくり活動の持続性について

秋田大学 学生員 ○児玉奈津子
秋田大学 学生員 中山 弘治
秋田大学 正会員 木村 一裕

1. はじめに

近年、少子高齢化による人口減少で、地方部では過疎化が進行し、地域コミュニティの衰退や自然・文化の維持が困難などの様々なことが問題視されている。一方で、都市部ではスローライフへの転換や消費生活の見直しなどから地域資源を見直そうという動きが広がり、こうした動きに合わせて地域資源を活かした地域づくり活動が増えてきている。

本研究ではこうした活動は地域活性化に欠かせない存在として、その活動には持続が重要であると捉え、現在活動を行っている団体・個人の特徴や工夫している点などから持続要因を明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

地域づくり活動を持続させていく要因について明らかにするために、活動を行っている秋田県内の団体・個人にアンケート調査を行い、回答者にインタビューを行った。表1にアンケート・インタビューの概要を、表2にアンケート回答者の概要を示す。

表1 アンケート・インタビュー調査概要

対象	地域づくり活動の担い手側
配布先	秋田県内の地域づくり活動団体
調査内容	1. ビジネスビジョン(目的、信念、目標) 2. 戦略・計画(工夫や特徴など) 3. 評価(得られた効果や課題)
配布枚数	67票
回収枚数	34票(回収率50.7%)

表2 地域づくりタイプ別回収枚数

地域づくりタイプ	団体数	構成員数
農村 (民宿・体験・農産物販売・農村移住支援)	6	12~255人
歴史・文化的資源 (保全・利活用・観光・体験・販売)	13	4~140人
自然 (保護・活用)	4	15~150人
その他の地域貢献活動 (イベント協力・参加・レストラン・販売)	11	11~115人

3. 地域づくり活動の目標と信念

地域づくり活動を行う主な目標を表3に、地域づくり活動で重要視する信念について重要度で回答してもらった結果を図1に示す。

表3 活動目標例

目標
・農村交流や体験、修学旅行生の受け入れなどで農村活性化
・直売活動や学校、福祉施設への食材提供などで地元貢献
・歴史的、文化的価値のある資源を守り、新たな観光場所を目指す
・自然の保護、保全を子どもたちにも伝えるため、自然観察会や出張授業などの実施
・イベントの企画、参加、協力などで地域活性化に貢献
・自分の能力を活かした販売活動で、地域に密着した活動を行う

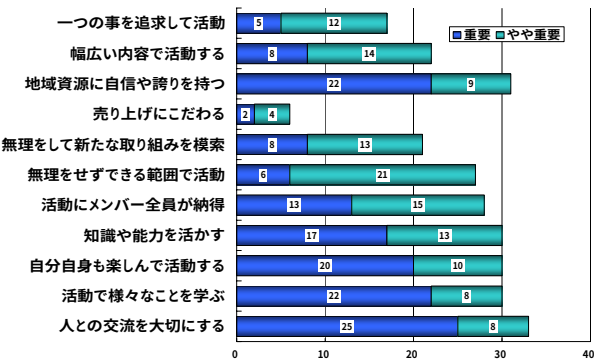


図1 活動する上での信念の重要度

活動する上での信念については、「売り上げにこだわる」を除いてほとんどの項目が重要視されており、利益よりも地域にいかに関与するかという思いがうかがえる。また、「地域資源に自信や誇りを持つ」という項目は重要度が高く、まずは自分たちの地域資源に目を向け地域全体で高い意識を持つことの必要性が認識されている。

表4 活動事例

名称	コミュニティ菓子工房 KIMIKO ワンディシェフの店
活動組織	個人経営
活動内容	菓子工房 ・手作りケーキを市価の半額以下で提供 ・ケーキ教室やケーキバイキングも開催 ワンディシェフの店 ・13名のシェフが日替わりでシェフを務め、食事を提供
目的・目標	自分の持っている才能を活かしたことがビジネスになり、それが地域の人に喜ばれているので、それで得た利益でまた新たな取り組みをして地域に貢献していきたい。
信念	得をしないでいいから損をしないと自分に言い聞かせ、楽しんで活動する。
戦略・計画	行政をあてにしない。補助金はもらったが、そのお金だけで活動はできないから、自分で稼ぎを出さなくてはならない。でも儲けようとは思わない。損をしなければ持続できるから。ケーキは注文販売だから赤字にならないし、シェフの店の家賃は会費から払っているから大丈夫。
効果・課題	手作りケーキだけでも年間500万円の売り上げがあり、大変喜ばれている。ワンディシェフの店も順調に会員数をのばしている。課題は冬の灯油代が赤字とかがあるがそれをどうするか考えるのも楽しい。
活動資料	

一例として、大館市で手作りケーキ販売とワンディシェフの店を経営している「コミュニティ菓子工房 KIMIKO」の概要を表4に示す。自分の能力を最大限に活かし、得をしなくていいから損をしないという強い信念が成功の要因であるといえる。その信念のもと、行政をあてにせずきちんと自分で稼ぎを出し、その利益でまた新たな取り組みをして地域に貢献するという無駄のない計画的な活動と、何事も楽しんでいるということも持続的に活動できている要因として考えられる。

4. 活動状況と構成員の増減

3章で述べた「売り上げにこだわる」の回答が少ない一方で、売り上げを重視したくはないが、それがないと持続していけないという意見があることから、活動団体を「ある程度資金や売り上げが必要」と「資金面にそれほど困らない」の二つのグループに分けられた。表5にグループ別の傾向を示す。

表5 グループ別傾向

グループ	票数	重要視している項目
(1) ある程度資金や売り上げが必要	24	資金・スタッフ不足を課題としてあげており、行政との連携や支援、周囲からの協力を重要視
(2) 資金面にそれほど困らない	10	無理をしないで楽しんで活動することを重要視

(1)のグループは、とくに行政との連携を重要視しており、具体的には「資金、人的支援、場所・情報の提供、相談できるような場所」などの支援があげられた。中には『『何か困ることはないか』と声をかけてもらえるだけでいいから気にかけてもらいたい』という、資金だけではなく行政の歩み寄りを求める声もあった。

(2)のグループは無理をしないことや楽しんで活動することを重要視しており、その結果活動が生きがいとなったという回答に繋がっているようである。

(1)のグループでも「無理のない活動がいいとは思いますが、それができない状況だ」という回答があり、行政など周囲の支援や協力、活動に心のゆとりを持てることが持続に重要であると考えられる。

次に構成員の増減と活動状況を表6に示す。

表6 活動団体・個人の現状

構成員の増減	増加した 14票	ほとんど変わらない 12票	減少した 8票
活動状況	できている 21票	まあできている 11票	できていない 2票

活動状況を見ると、優れた活動内容であっても必ずしも持続性が高く、また構成員が増加するとはいえない。しかし、図1の結果で「人との交流を大切にする」がとくに重要度が高いことから、他の項目と合わせて見たところ、構成員の増減で特徴が見られた。

構成員が増加している団体は半数近くが「人との交流を大切にする」を一番重要と考えており、インタビューでも、「お互いを思いやり、コミュニケーションを取らなければメンバーは減少してしまう」、「人が集まれば地域は元気になる」、「まるっきり他人だった人と友達になった」という声があったことから、人との交流が地域活性化と活動の持続に大きな影響をもたらしていると考えられる。

また、構成員の減少の理由としては「メンバーの高齢化」という意見があり、持続していくための取り組みの重要度（図2）においても、「世代交代をしっかりと行う」という項目が最も重要度が高いことから、地域づくり活動を持続させていくための課題として世代交代をきちんとできるような仕組みづくりが必要であるといえる。

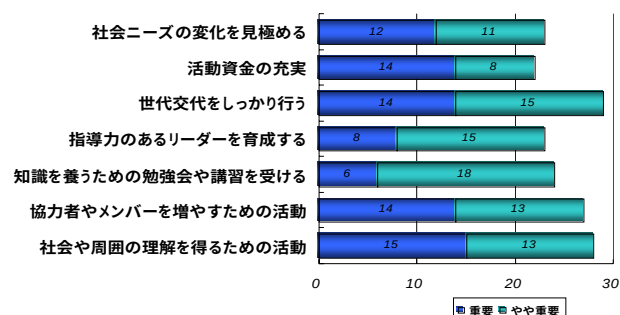


図2. 持続していくための取り組みの重要度

5. まとめ

今回の調査では、地域づくり活動を持続していく上で特に「周囲の関わり」が重要であることが明らかになった。行政からの支援や人との交流にしても地域活性化には必要不可欠であるのが人の関わりである。今後の課題としては、行政や観光協会、または他団体などとの連携をいかにして行っていくか、また、住民が地域資源に自信と誇りを持ち、地域一体となって活性化に向けてまず意識を高めることが必要である。そして焦らず、地道に地域活性化に楽しんで取り組むことが持続へ結びつくのではないかと考えられる。